

健康教育の充実

【現状と課題】

児童生徒が、健康増進に必要な知識、能力、態度を身に付けることにより、生涯にわたって健康的なライフスタイルを確立できるよう、学校における健康教育の充実が必要です。

近年、性の問題行動、喫煙、飲酒、薬物乱用、不登校や保健室登校、アレルギー疾患の増加など、児童生徒の健康課題が多様化しています。

平成20年度の学校保健統計調査によると、肥満傾向の出現率が小学校で9.4%、中学校で10.0%、高等学校で9.5%となっており、小中学校において前年度より増加しています。

多様化する児童生徒の健康課題の解決には、社会全体で取り組むことが必要であり、学校、家庭、地域の連携が不可欠です。

【これからの施策の方向性】

学校の実態や発達段階に応じた学校保健の充実を図るとともに、学校保健をすべての教職員で推進するための組織体制の充実に努めます。

児童生徒の健康課題に適切に対応するために、学校、家庭、地域、関係機関等との緊密な連携を図ります。

【主な取組】

学校保健に関する調査や学校保健優良学校等審査を通して、保健教育や保健管理など学校保健に関する取組の充実に努めます。

健康教育研究大会及び各種研修会等の内容を充実させ、教職員の指導力向上を図ります。

すべての教職員が学校保健活動に関心を持ち、学校内の関係組織が十分機能する学校保健の取組を推進します。

教職員、保護者、学校医等が連携して児童生徒の健康づくりに取り組む「学校保健委員会」の活動を推進します。

地域の実情を踏まえた学校保健の取組を推進するために、医師会、歯科医師会、薬剤師会、保健所等の関係機関との連携を深めます。